



## 対格接尾辞: -t

「～を」という目的語を表すには、語のうしろに対格接尾辞 -t をつけます。この接尾辞がついた形を対格形と呼ぶことにします。

### 名詞の対格形

母音でおわる語

対格数接尾辞 -t をつけます。そのとき、語末の -a, -e は長くなります。

alma リンゴ → almát

körte ナシ → körtét

子音でおわる語

母音調和の規則にしたがって、後舌母音語には -ot, 前舌母音語には -et, 最後の母音が円唇前舌母音の語には -öt がつきます。

nap 日 → napot

szék 椅子 → széket

gyümölcs 果物 → gyümölcsöt

ただし、語末の子音が、-j, -l, -ly, -n, -ny, -r, -s, -sz, -z, -zs である場合には、発音しやすいので、直接 -t がつきます。

banán バナナ → banánt

reggel 朝 → reggelt

rendőr 警官 → rendőrt

不規則変化をする語

-ot, -öt ではなく、-at, -et がつきます。

ház 家 → házat

toll ペン → tollat

könyv 本 → könyvet

最後の母音が短くなり、-et, -at がつきます。

levél 手紙 → levelet

híd 橋 → hidat

最後の母音が脱落します。

cukor 砂糖 → cukrot

étterem レストラン → éttermet

tükör 鏡 → tükröt

### 形容詞の対格形

「赤いのを」や「きれいなのを」のように、形容詞が名詞として使われて、目的語になるときには、名詞と同じように対格接尾辞 -t をつけます。名詞のととは異なるつなぎ母音を使いますが、名詞より簡単です。

母音でおわる語

対格接尾辞 -t をつけます。そのとき、語末の -a, -e は長くなります。

drága 高価な, 貴重な → drágát

gyenge 弱い → gyengét

子音でおわる語

母音調和の規則にしたがって、後舌母音語には -at, 前舌母音語には -et が、つきます。

piros 赤い → pirosat

szép きれい → szépet

不規則変化として、-ot がつく後舌母音語や、母音が短くなる語があります。

nagy 大きい → nagyot

boldog 幸せな → boldogot

nehéz 重い, むずかしい → nehezet